

特養かりふ・あつべつ

(札幌市厚別区)

1994年4月に札幌市厚別区厚別中央5条6丁目で開催された特養「かりふ・あつべつ」。「かりふ」はアイヌ語で「輪」を意味し、「誰もが気軽に集まれる場」という思いが込められている。障害福祉サービス事業所と連携し毎月、認知症カフェを開催するなど地域交流に取り組むほか、施設での看取り、併設サービスによる在宅支援など、「在宅支援から施設ケアまで」「介護予防から看取りまで」のトータルケアを展開し地域住民の生活も下支え。2018年度からは職員にとっても「その人らしさ」を出せる場として働きやすい職場環境づくりに力を入れている。



地域に開かれた施設
障害就労支援連携も

開設26年目を迎え、地域住民が気楽に立ち寄れる開かれた施設として機能している。訪問したのは毎月1回開催される33回目となる認知症カフェ「かりふカフェ」の日。参加者の地域住民、ボランティア、入所者家族ら70人超は、ご当地体操「あつべつリハメンコ体操」で体を動かし、外部講師の薬剤師による薬や認知症についての講和を聴講。カフェ飲食物を提供等は親交のある同区内の就労継続支援B型事業所「スペースII希望」が担っている。「毎回30人ほど参加

1万人超の寄付金等によって建てられた「かりふ・あつべつ」に、さされるのですが、きょうは特に関心があるのだと、が葉に関すること、皆さん関心があるのだと、思います」と柏原伸広施設長。これまでかりふ

介護事業者はいま

#652

併設の高齢者生活支援ハウス「えみな」



午後のおやつタイムで食事介助する新人職員

15年12月。職員らの「かりふでも認知症カフェを開きたい」という思いと、法人の「地域にさらに貢献し気軽に相談できる施設づくり」を目標にしていたことが

ケア科科長。法人職員だけで飲食物の準備、提供は難しいという悩みの中、模索したのが他事業所との連携。同施設の夏祭りなイベントで交流のあった「スペースII希望」に声を掛け、初回から

午後のおやつタイムで食事介助する新人職員

法人が運営する介護予防センター厚別中央・青葉で取り組んでいくことを決め運営委員会、事務局を立ち上げ、同11月に市から認

証を受けた。「運営・企画を立案していく中で、大きな課題は飲食物を提供する『喫茶』部分の運営でした」と荒木久子施設

午後のおやつタイムで食事介助する新人職員

職員も入所者もその人らしき大切に

共同運営。同事業所利用者が活躍する場として、訪問介護、訪問看護のほか、介護予防センター

参加も少なくない。地域公益活動としてボランティアを活用した生活支援事業にも取り組む、訪問介護では対応できない電球取り換え等、生活上のちょっとした困りごとまでサポートするなど、在宅支援も手厚い。

「いつもできるわけではないが、入所者の思いを酌んで、困難事例にも果敢に取り組む姿勢が見られる。例えば、四股まひで要介護5の身寄りのない80代男性入所者のケースでは、奈井江町に住む知人に、ひと目会いたという思いを聞いたのが入所者一人ひとりの質向上にもつながっていきたく考えた。

「主任は5年後、10年後の自分のキャリアを描けるような働きやすい体制が必要。今後、自分が目指す専門性を発揮していきけるような、職員にとってもその人らしさが出せる場にしていきたく」と強調する。



日課の羊の皮むきの手強い



夏の日課行事・花火大会



夏の日課行事・花火大会



夏の日課行事・花火大会



夏の日課行事・花火大会

■運営主体 社会福祉法人協立いつくしみの会
■住所 札幌市厚別区厚別中央5条6丁目5-20
■電話番号 011(896)1165

■電話番号 011(896)1165



夏の日課行事・花火大会



正月行事を楽しむ入所者



近所の公園で桜観賞

特養は均在所期間が3年8職員61人で、年間およそ203人が同乗してサポート。体調変化に注意を払いつつ、高速道路が課題で、中堅職員退職が重なったのをきつかけとして、18年度から育成委員会を設立して課題解決に着手し始めた。

現在進めているのは業務マニュアル整備。人によって指示が異なるのを防ぎ、業務を見直すことによりケアの質向上にもつながっていきたく考えた。

「主任は5年後、10年後の自分のキャリアを描けるような働きやすい体制が必要。今後、自分が目指す専門性を発揮していきけるような、職員にとってもその人らしさが出せる場にしていきたく」と強調する。

■運営主体 社会福祉法人協立いつくしみの会
■住所 札幌市厚別区厚別中央5条6丁目5-20
■電話番号 011(896)1165